

ウッドフェスティバルに参加
 〈香川森林管理事務所〉



一〇月九日、一〇日の両日、高松市のサンメッセ香川において、「2010ウッドフェスティバル」が開催されました。このイベントは、木材の利用推進を目的に、木材関連団体等が各種催しや即売会を実施しているもので、当所も毎年参加しています。

当所では、つるかご編み教室とシイタケの菌打ち体験を行いました。つるかご編み教室では、職員が講師となり、子供から大人までが個性的なかごを完成させました。また、シイタケの菌打ち体験では、菌打ち用のハンマーやドリルでほだ木に穴をあけ、ハンマーで菌の駒を打ち付ける体験を行い、菌を打ち付けたほだ木は参加者にプレゼントしました。

どちらのイベントも盛況で、特につるかご編み教室は「毎年来ています」という方もおり、人気ぶりがかがえます。シイタケの菌打ちも体験したことがない人が多く、楽しんで行っているようでした。

このようなイベントを通じて、森林や国産材の利用について関心を持ってもらえたらと考えています。



つるかご編

JAM一〇周年
 記念植樹
 〈香川森林管理事務所〉



一〇月一六日、東かがわ市の兼広国有林において、JAM一〇周年記念植樹が

実施され、二九名が参加しました。

JAMは、機械・金属を中心とした単位労働組合が加盟する産業別労働組合です。今回の植樹は、JAM結成一〇周年記念行事の一環として、JAM四国青年協議会が中心となり実施したものです。

はじめに、当所職員が植樹方法を説明した後、早速植樹を開始しました。参加者は、普段の職場とは違う急斜面の作業条件や使い慣れない鋏に苦労しながらも、ヤマザクラ、ヤマモモ、イロハカエデ、クスギを一本一本丁寧に植樹していました。

参加者からは、「思いのほか土が固くて石が多い。畑とは違う。」といった感想が聞かれ、山の作業の大変さを実感したようでした。

作業は一時間ほどで終了し、最後に記念撮影をして行事を終えました。

来年からは、下刈りを行

うこととしています。



植樹

観音寺市立観音寺東
 小学校森林教室開催
 〈嶺北森林管理署〉



一〇月六日、工石山自然休養林で香川県の観音寺市立観音寺東小学校五年生四名（教員四名）を対象に森林教室（間伐体験）を開催しました。

最初に、当署職員から間伐の必要性や実施方法などについてパネルを使って説明を行った後、七班に分かれて間伐を行いました。立木を伐る体験はもとより、鋸を扱うこと自体が初めて

の子どももおり、慣れない

ながらも児童たちは、一生懸命に鋸を挽いていました。「メキメキ」という音とともに間伐木が倒れると、「わあーっ」という歓声が響き渡りました。そして間伐の前と後では林内の明るさがいぶん違うということを感じとり、間伐作業の大切さを実感していました。

その後、間伐した木を利用してコースター作りに挑戦し、できたてのコースターの匂いを嗅いだり、友だちと大きさを比べたりしていました。

一方、工石山青少年の家では間伐に参加できなかった児童・教員が、木を輪切りにした板の上に、サクラやシヤラの木（別名ナツツバキ）の枝などで作ったリスやクマの置物を飾り付け写真立てを作りました。

最後に、子どもたちの代表からお礼の言葉とともに、「鋸を挽くのは大変だったけど木が倒れた時は嬉しか

った」などの素直な感想が聞かれ、有意義な森林教室となったようでした。



間伐体験

**ニホンジカ食害
防護柵を設置**
〈高知中部森林管理署〉

一〇月一七日、当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、シカ防護ネット柵などを設置しました。この柵は、三嶺山系のササやツツジ類などをシカの食害から守るだけでなく、土壌の流失を防止するためにも重要なものです。今回の作業には、物部川流域の住民の方々を中心に、

総勢百名余りが参加してくれました。参加者は、紅葉が始まった美しい三嶺の頂上を見わたすことができる、白髪分岐の周辺で作業を行いました。資材は既にヘリコプターで現地に運んでおり、運び上げる荷物は道具だけでしたが、かなり急峻な歩道を片道一時間ほど登って行かねばならず、途中何回も休息をとることになりました。

今回、作業を行う白髪分岐周辺のササ原は、最近ニホンジカの食害が急速に進み、大部分が枯れた状態になっています。今回の作業では、ササ等の保全と土壌の流失防止を図るため、周囲が二〇〇以上の柵を三箇所を設置しました。また、登山道周辺にある樹齢二百年のモミの木をニホンジカの食害から守るため、ネットを一本一本木の根元に丁寧に巻き付ける作業も行いました。

今年四月に設置した柵内

では、青々と茂ったササ類がみられ、参加者からは「柵づくりで苦労したかいがあった」との声が上がりました。今後も、ニホンジカの食害から三嶺の森を守る作業は引き続き行っていきます。ぜひ一度、自然が多く残っている三嶺に来てみて下さい。



シカの食害からササ原をまもる柵を設置

**山の学習で森林教室
段ノ谷山天然杉の
名札作製と環境学習**
〈安芸森林管理署〉

一〇月一七日、室戸市段ノ谷山国有林において、佐喜浜の源木を育てる会（会長 長田村拓氏）と安芸森林管理署が協力し、公募で選ば

れた地域の方々が（子供九人・大人三八人）が参加して、段ノ谷山の天然杉の名札の作製及び設置、森林の働きが環境に及ぼす影響について森林教室を行いました。段ノ谷山登山口では、一班ごとに決まった参加者が、二班に分かれた参加者が、班ごとに決まった杉の名札をそれぞれの思いを込めて作りました。

参加者は、製作した名札を持って、設置する天然木に向けて出発し、途中、署員による樹木の説明を聞き、また、手作りのボードコーンを使って鳥との会話に感激しながら、天然杉群の入口に近づきました。最初の天然杉、「ハロー杉」に遭遇したときは、杉の表情に感嘆の声を上げていました。これから順番に名札を設置し、順次天然杉を鑑賞しながら散策しました。

昼食後、当署職員が「森林の働きが環境に与える影

響について」の説明を行い、森林の働きなどについて認識を深めて貰いました。

その後、残りの名札を順次設置していき、天然杉を見て名前に納得したり、天然杉の表情に見とれていました。今回、特に「大杉」については、全員で名札を作製し設置しました。参加者は、いろいろな天然杉の表情を見て感激し、このように表情豊かな天然杉にビックリし、楽しい一日を過ごしました。



大杉にて

奈半利小学生が
「野根山街道」を歩く
〈安芸森林管理署〉

一〇月二二日、奈半利小学校の六年生一七名、先生・保護者十三人が「野根山街道」を歩きました。

これは、奈半利小学校の伝統行事として約三〇年間続いており、野根山街道各所の史跡を訪れ郷土の歴史に関心を持つ、きまりを守り集団行動を身に付ける、長い道のりを歩き抜く体力や精神力を養うことを目的として毎年行われているのです。

子供達は事前学習として、地元の人に史跡について説明を聞き、署が用意した野根山街道地図などを勉強して当日を迎えました。

学校で出発式を行い、署長から野根山街道の話、野友首席森林官から登山に当たったの注意事項の説明を受けました。代表児童から、

「野根山街道の自然、史跡を楽しく学んできます。」と力強い挨拶の後、バスで蛇谷登山口へ向け出発しました。今年は、岩佐関所跡から米ヶ岡までの約一二kmを約五時間かけて歩く行程です。

一〇時に岩佐の関所を元気に出発し、最初に急な登り坂を登ると鳥のさえずりで挨拶を受け、手作りのバードコールで返事を返し、児童達は、鳥との会話を楽しみました。奈半利町が一望できる装束峠展望台のすばらしい景色は、あいにくかすんで見えませんでした。山を貫く街道の雰囲気は十分味わうことができました。

有名な宿屋杉で昼食を楽しみ、午前中の疲れも回復したところで、一路米ヶ岡を目指し出発しました。班ごとに児童・保護者は、一人の脱落者もなく最後まで元気に歩きぬきました。かつて小学生の時に歩き、今

再び子供と一緒に歩かされた保護者もいて、大変楽しかったと感想を述べられています。

学校に着き、児童の代表が「みんなで励まし助け合って歩いたことは、思い出として残ります。この経験を残りの学校生活に生かしていきたい。」とすばらしい挨拶で今回の行事を締めくくりました。子ども達の良い思い出となるとともに、児童・保護者が共有して、森林の中でいろいろなことを目で見て体で感じたことが大変有意義だったのでないかと考えています。



宿屋杉で記念撮影

嶺北県庁とともに
参加でブービー賞
―六五回本山町職域体育大会―
〈嶺北森林管理署〉

一〇月一七日に第六五回本山町職域体育大会が開催され、当署も、徳島署やご家族の応援を得て参加しました。

今年、嶺北県庁（高知県中央東土木事務所本山事務所外）と相談し、合同チームとして臨みました。

結果は、綱引きでは今年も相手を秒殺で粉砕し、スプリンリレーでは女性チームが三位と健闘、そして今年度新採二人の活躍等がありました。昨年よりちよつと上、ブービー賞にとどまりました。

「よく頑張った」という思いと「嶺北県庁に申し訳ない」という思いと複雑な気持ちになりましたが、嶺北県庁の方に、「また来年もいっしょにやりましょう」と言って頂きました。



職域体育大会（綱引き）

反省会では、次長提供の写真を見ながら、秋空のものと汗をかいた爽快感、珍プレーを思い出しながら、ブービー賞品であるお酒をいただきました。そしていつのまにか、職員の子どもさんたちと、まんが教室となりワイワイガヤガヤと楽しく一日が終わっていききました。





大正森林事務所

首席森林官 外山正明

大正森林事務所は高知県の西部、高岡郡の南端に位置し国有林と官行造林を併せて約二、八〇〇畝を管理しています。

管内は森林が多く平坦地に乏しい中山間地域で、四万十川本流と支流の榊原川が合流する田野々を中心し河川に沿って集落が点在し、標高一五〇〜九〇〇メートル、年平均気温一五℃前後、平均降水量は約二、七〇〇mmと森林資源の育成に適した気候で、水と緑の山に囲まれた閑静な所です。このように水も空気も清らかな自然に恵

まれた地域には明治二六年に酒造りを始めた蔵元があり、健康で安全な四万十の栗焼酎『ダバダ火振』が作られています。ちなみにこの『ダバダ火振』の由来は、山深いこの地の、かつて村人たちの集いの場所だった「駄馬」と清流四万十川の伝統的漁法で、松明の火をふりながら鮎を追い込む「火振り漁」に因んでつけられたそうです。私も嫌いな方ではないので仕事の後は地元酒に癒されています。

の上部からモミ・ツガ林、シイ・カシ林、アカマツ林など、ヤブツバキクラス域の自然植生が繁茂しています。また、県境付近の山頂には、ブナ林も部分的に点在しています。現在では大部分がスギ・ヒノキ植林となり、この中にシイ・カシやアカマツ林などが点在する状態です。特に、この地域には国の絶滅危惧種ⅠB類に属するヤイロチョウウが生息しており地元の保護団体が大正町に二一畝の「ヤイロチョウウの生息する森」を購入し、生息数や繁殖状況、営巣地の安全を確保等に取組んでおり、隣接する国有林においても今後の施業方法についてきめ細やかな森林整備が必要であると考えます。

現在、大正森林事務所は森林官と係員、基幹作業職員四名で保育間伐、除伐を中心とした森林整備をはじめ、森林保全管理、林道測定、林野火災予防・不法投棄等の巡視などの業務を行っています。請負では、間伐作業について、搬出型事業を計画的に進めるため、林内トラック道や幹線路網を組み合わせた、五ヶ年計画を作成して進めています。

私達の職場は自然が相手であり、森林の持つ多面的機能の高度発揮は勿論、将来的に目指していく森林の姿を考えつつ、今後とも業務をはじめとして地元の各種行事などを通じて地域の皆さんの声にも十分耳を傾け、国有林としての使命である信頼される「森林事務所」となるように今後も研鑽・努力していきたいと思っています。最後に、今年度の大正森林事務所の安全目標である「基本動作の確認と周囲の確認もう一度！」を心に刻み無災害で取り組んでいきたいと思えます。



須崎労働基準監督署との合同安全パトロール

